

「とやま未来創造青年プロジェクトチーム」の検討状況について（経過報告）

1 概 要

県の次期総合戦略の策定を進めるにあたり、本県の将来を担う若い世代の意見・見識を幅広く聴取し、戦略に反映させるため、県内各界で活躍する 30 歳から 40 歳代を中心とした方々からなるプロジェクトチームを設置するもの。（委員構成は別添のとおり）

2 開催状況

(1) 第 1 回 9 月 11 日（水）

〔事務局説明〕 本県の現状と課題、県の施策、参考データ等のインプット

〔全体討議〕 委員からの意見・質問等

〔グループ討議〕 現状分析、論点の洗い出し

(2) 第 2 回 10 月 10 日（木）

〔クロスティスカッション〕 各グループの現状分析、論点整理に対する他グループからの意見出し

〔グループ討議〕 討議・提言の方向性決定

3 各グループの検討状況

(1) 第 1 グループ【テーマ：暮らしたくなるまち・暮らして心地良いまち】

＜「富山型 HYUGGE」の提案～「世界一幸せなくに、とやま。」＞

「富山型 HYUGGE※」をコンセプトに、教育・働き方・子育て環境の観点から提言を検討。個性や才能を伸ばす教育、多様な働き方の創出、家事代行サービス・ファミリーサポート、学童、保育園の充実を進めるとともに、県内複数地域での「移住サポーター窓口」の設置、県内全域共通のインスタグラムアカウントを開設し、それぞれの地域の魅力を発信する等の提案が検討されている。

※HYUGGE（ヒュッゲ）…デンマークの言葉で、「人と人のふれあいから生じる温かく居心地の良い雰囲気」の意味

(2) 第 2 グループ【テーマ：地域経済の活性化、高付加価値・創意工夫のものづくり】

＜本県を「学びの聖地」として発信することによる産業観光の充実や子育て世代の誘致＞

本県の強みである「教育」をベースに、いつでも誰でも学ぶことのできる富山県を発信することで、産業観光の強化、子育て支援策の拡充、関係人口の増加を推進する提案が検討されている。具体的には、体験型インターンシップの受入強化、県内学生の県外（海外）留学・短期インターンシップ・交換留学の推進、県外学生の県内留学の推進、海外の教育関係者の受入促進など。

(3) 第 3 グループ【テーマ：富山の自然の恵み・魅力の発信】

＜本県の豊かな自然の恵みを活かした先端的な研修・体験プログラムの開発と発信＞

脳科学等の観点を取り入れた先端的な研修と農業体験をセットに発信し、県内外及び海外も視野に入れた研修プログラムの発信のほか、心の平穏を保てなくなっている方の回復の場とする等の提案が検討されている。

4 今後のスケジュール

令和 2 年 1 月中旬 第 3 回青年プロジェクトチームにおいて、知事へ施策提言

令和 2 年 3 月上旬 第 9 回とやま未来創造県民会議において代表幹事より提言内容を報告

とやま未来創造青年プロジェクトチーム 委員名簿

(敬称略・五十音順)

		団体名	氏名	備考
代表 幹事	1	富山トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長	品川 祐一郎	
	2	富山県酒造組合会長	榊田 隆一郎	
	3	有限会社中央ケアサポート 代表取締役社長	水上 克美	
代表 副幹事	4	株式会社石金精機 代表取締役	清水 克洋	
	5	株式会社ブルーコムブルー 代表取締役	松田 英昭	
	6	株式会社ワプラス 代表取締役	村上 宏康	
委員	7	一般社団法人moribio 森の暮らし研究所 代表理事	江尻 美佐子	
	8	Lattice work 代表	大島 紀明	
	9	cocomama 代表	大島 恵	
	10	株式会社アグリたきもと 代表取締役	海道 瑞穂	
	11	鹿熊工業株式会社 代表取締役	鹿熊 洋一	
	12	有限会社土遊野 代表取締役	河上めぐみ	
	13	農事組合法人 たてやま営農組合事務局長	坂井 真信	
	14	MPO法人立山クラフト舎 代表理事	佐藤 みどり	
	15	キュアコード株式会社 代表取締役	土田 史高	
	16	株式会社ナガエプリュス 取締役	鶴本 晶子	
	17	株式会社能作 専務取締役	能作 千春	
	18	富山県漁協青年部連合会長	野口 和宏	
	19	株式会社OZ Links 代表取締役	原井 紗友里	
	20	富山県民間保育連盟青年部長	古本 達也	
	21	前田薬品工業株式会社 代表取締役社長	前田 大介	
	22	TENKIN NOTE代表	松田 悠	
	23	富山県オペラ協会 副会長	丸山 美由紀	
	24	株式会社コラリアルチザンジャパン 代表取締役	山川 智嗣	
	25	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科2年	岩田 尚也	
	26	富山県立大学博士前期課程生物工学専攻1年	谷 美沙季	

とやま未来創造青年プロジェクトチーム グループ構成

第1グループ <暮らしたくなるまち・暮らして心地良いまち> 9名

◎グループリーダー
(五十音順)

株式会社ブルーコムブルー	◎松田 英昭
有限会社中央ケアサポート 代表取締役社長	水上 克美
NPO法人立山クラフト舎 代表理事	佐藤 みどり
Lattice work 代表	大島 紀明
cocomama 代表	大島 恵
富山県民間保育連盟青年部長	古本 達也
TENKIN NOTE	松田 悠
県オペラ協会副会長	丸山 美由紀
富山県立大学博士前期課程生物工学専攻1年	谷 美沙季

第2グループ <地域経済の活性化、高付加価値・創意工夫のものづくり> 9名

株式会社石金精機 代表取締役	◎清水 克洋
富山トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長	品川 祐一郎
鹿熊工業株式会社 代表取締役	鹿熊 洋一
キュアコード株式会社 代表取締役	土田 史高
株式会社能作	能作 千春
前田薬品工業株式会社 代表取締役社長	前田 大介
株式会社OZ Links 代表取締役	原井 紗友里
株式会社コラリアルチザンジャパン 代表取締役	山川 智嗣
富山大学 都市デザイン学部都市・交通デザイン学科2年	岩田 尚也

第3グループ <富山の自然の恵み・魅力の発信> 8名

株式会社ワプラス	◎村上 宏康
富山県酒造組合会長	榊田 隆一郎
moribio 森の暮らし研究所 代表理事	江尻 美佐子
株式会社アグリたきもと 代表取締役	海道 瑞穂
有限会社土遊野 代表取締役	河上めぐみ
農事組合法人 たてやま営農組合事務局長	坂井 真信
株式会社ナガエプリュス 取締役	鶴本 晶子
富山県漁協青年部連合会長	野口 和宏

とやま未来創造青年プロジェクトチームの進め方について（イメージ）

<会合の進め方・到達点>

○ 第1回会合（9/11）

【全体討議＋グループディスカッション】

- 〔事務局説明〕 本県の現状と課題、県の施策、
- 参考データ等のインプット
- 〔全体討議〕 委員からの意見・質問等
- 〔グループ討議〕 現状分析、論点の洗い出し

グループ内で論点の優先順位整理、深掘り

○ 第2回会合（10/10）

【グループ内＋グループ間クロスディスカッション】

- 〔クロスディスカッション〕 各グループの現状分析、論点整理に対する他グループからの意見出し
- 〔グループ討議〕 討議・提言の方向性決定

◆ **第8回とやま未来創造県民会議(10/28)において、事務局より中間報告**

国の予算案、次期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等について委員へ情報提供

グループ内で提言内容の精査、とりまとめ

※各グループにおいて、SNSを活用した意見交換や、自主的な会合の開催により議論を深化

○ 第3回会合（1/14）

【政策提言・プレゼンテーション】

- 各グループより知事への政策提案、知事コメント

◆ **第9回とやま未来創造県民会議(3月上中旬)において、代表幹事より提言案を報告**

◆ **第2期とやま未来創生戦略へ反映**

※各会合の間は、各グループにおいてSNS等も適宜活用。

(ex.LINE グループによる意見交換、時間を決めたスカイプによる web 会議等)

2019年10月9日

富山県地方創生「暮らしたくなるまち」チーム

〈富山型 HYUGGE の提案〉

世界一幸せなくに、とやま。

発表内容

■富山ってどんな場所?? (松田)

富山ってどんな場所という話し合いをして、
誰かを介せば、知り合いにつながるという温かさがある一方で、
日々の生活を大切にできていないのでは?という話に。
立山という絶対的な存在や周りの素晴らしい環境をもっとみんなで楽しむべき。

■五感を育てるまち、とやま。(大島恵)

みんなで富山にいて、五感でどんなことを感じるかもあげてみた。
→聞く、→見る、→触る、→嗅ぐ、→味わう
そこから「富山型 HYUGGE」を提案することで今いる人も新しく来る人にも、世界一幸せなくに、とやまに向けての提案ができると考えました。

■富山型 HYUGGE とは? (大島恵)

HYUGGE(ヒュッゲ)とは、デンマークの言葉で、
「人と人とのふれあいから生じる温かく居心地の良い雰囲気」という意味を持つ。
そこから富山型の提案をします。

《富山型 HYUGGE の提案》→これにあつた政策を実行して欲しいです。

・教育(丸山・谷) 個性や才能を伸ばす教育・学生が地方に目を向ける教育

東京から来たママの意見として、「子ども達の芸術活動に対するバックアップが非常に高く、また子どもの活躍にスポットを当てる文化が根付いているように感じてます!」という意見も外部からあり。他の国の芸術における教育なども挙げる。大学のサマースクールのような取り組みが増えてほしいなども話す。

・仕事(松田・大島紀) 多様な働き方

富山は、まだまだ正社員としての働き方が根強い。働き方の多様化が増えない限り、住みやすさの改善にもつながりにくいと感じている。

また、地方の方が仕事(起業)の可能性が高いとも感じているので、そこうまく流れをくめたら。

・子育て（水上・古本） 家事サービス・保育

子育てしやすいというが、富山県は女性に家事負担が多いというデータあり。子育て・働きやすさの観点から、家事代行サービス、ファミリーサポート、学童、保育園の充実が必要。また、移住者も20-40代の移住者が多いことから力を入れる必要あり。

※スライドデータですが、富山は同居が多いためという意見もあり。ただし、今後は核家族が増えていくと考えられるので、子育てサービスの充実は必須だろう。

※中間発表では上記3つ。最終発表までに掘り下げていきます。

富山型 HYUGGE という共通の認識を持ちながら、横のつながりを持っていくことや情報発信をしていくことが大切であることから下記の内容を実施していくのはどうか？

■ 移住サポーター窓口の設置(松田)

富山各地に移住者・転勤者のための相談窓口を設置。

(魚津市・富山市・高岡市の3箇所からスタート)

■ Instagram の開設 @hyugge.toyama(佐藤)

富山に暮らす移住者が、「世界一幸せなくに、とやま。」で暮らす良さ、魅力、新たな発見を伝える場所。20代~30代に向けて発信するアカウントを新たに設置。各市町村2名ほど担当者を決め、インスタを更新。五感を育てる富山の魅力を発信します。

まとめに下記の内容を入れつつ、最後まとめる。(松田リーダー)

■ キャッチコピーを考えたので県としてのPRを一本化し多様化する。

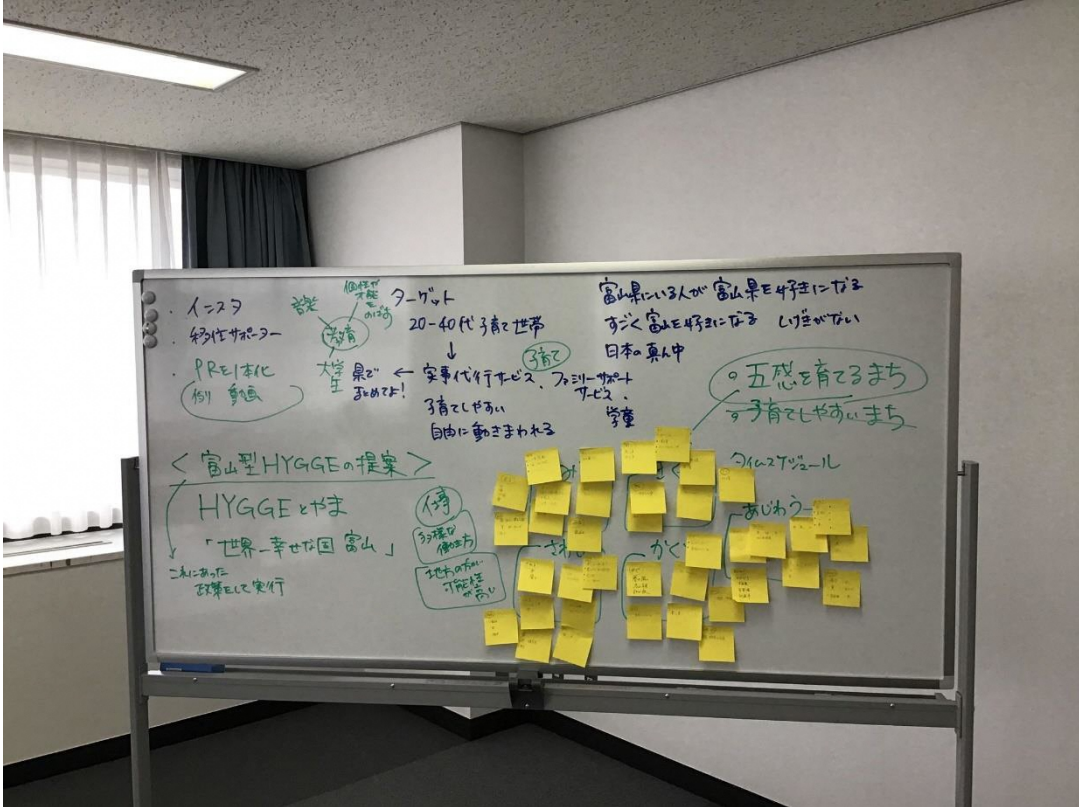
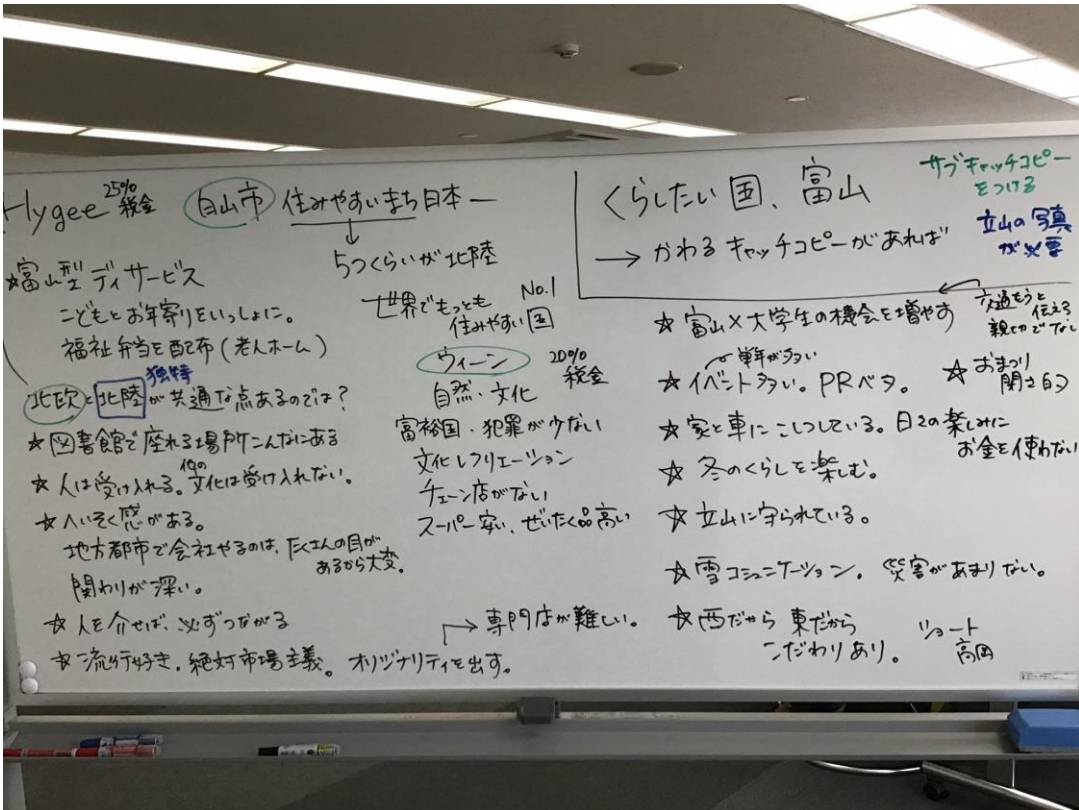
そして、「五感を育てるまち、とやま。」というワードから最終的に、

〈富山型 HYUGGE の提案〉

世界一幸せなくに、とやま。

という共通の認識を持てるワード・政策が必要。世界一幸せなくに、とやま。になるように、みんなで富山を好きになり目指しましょう。

■話し合いの議事録



* 10月中間発表

富山県地方創生

「暮らしたくなるまち」チーム



富山型HYUGGEの提案 「世界一幸せなくに、とやま。」

富山ってどんな場所??

lygee ^{25%} 税金 (白山市) 住みやすいまち日本一
↓
5つくらいが北陸
世界でもっとも住みやすい国 No.1
ウーレン ^{20%} 税金
自然・文化
富裕国・犯罪が少ない
文化リゾート
チェーン店がない
スーパー安い、ぜいたく品高い

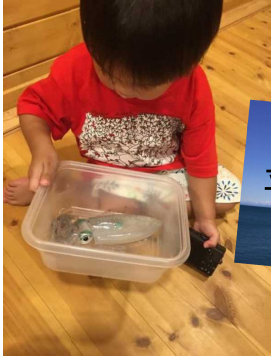
☆ 富山型サービス
こどもとお年寄りEいっしょに。
福祉弁当E配布 (老人ホーム)

☆ 北欧 = 北陸 ^{独特} の共通点あるの? ^{19%}
☆ 図書館と座敷場所PT中心にある
☆ 人は受け入れる。文化は受け入れない。
☆ 人いそぐ感がある。
地方都市で会わせるのは、E人の目があつた大変。
関わりが深い。

☆ 人を介せば、必ずつづける
☆ 流行好き、絶対市場主義。ホリツナリE出す。 → 専門店が難しい。

くらしたい国、富山
→ かわるキョウチコピーがあれば
☆ 富山 × 大学生の機会E増やせよ
☆ イベント多い。PRバタ。 ^{おまわり} 開き
☆ 家と車にこいつらいる。日2の楽しみに
☆ 冬のくらしE楽しむ。 お金E使わない
☆ 立山に守られている。
☆ 雪コシ = T-ツォン。災害があまりない。
☆ 西だから 東だから
こごわりあり。 ^{リゾート} 高田

☆ ^{サグキョウチコピー} Eつづける
立山の写真が必書
☆ ^{おまわり} 開き
☆ ^{おまわり} 開き
☆ ^{おまわり} 開き



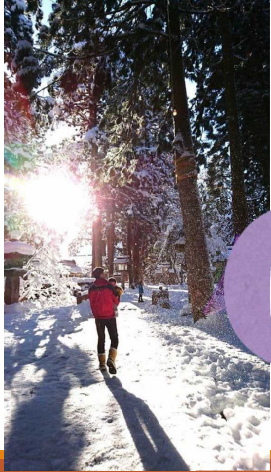
見る



水

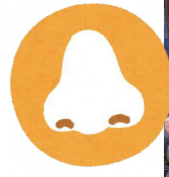


食べる



聞く

五感を育てるまち、とやま。



嗅ぐ



触る

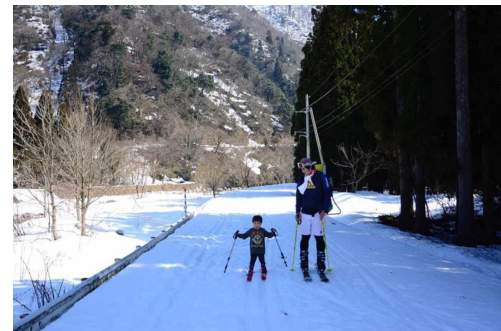


3

富山型HYUGGEとは？

HYUGGE(ヒュッゲ)とは、デンマークの言葉で、

「人と人とのふれあいから生じる温かく居心地の良い雰囲気」という意味を持つ。



4

富山型HYUGGE提案1 教育

個性や才能を伸ばす教育



富山県オペラ協会

「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム

富山県立大学 サマースクール2019 バイオ医薬品コース 受講者募集

実施期間 2019年8月19日(月)～8月30日(金)
2週間(10日間)

参加費 無料
(参加交通費・宿泊費補助あり・14万円程度)

定員 15名
※応募人数が多い場合は選考委員会にて決定します。

募集期間 2019年4月1日(月)から5月10日(金)まで

募集対象 原則、東京都(23区内)の大学に在学する
理系学部4年以上

開催場所 富山県立大学射水キャンパス、
富山県薬事総合研究開発センター等

富山県は、医薬品生産額が全国で第1位など、医薬品分野の研究開発や人材育成の基盤が整っています。この強みを活かして、2018年度から産学官連携による「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムを立ち上げ、さらなる研究開発・人材育成の強化を図っています。

このサマースクールは、首都圏の学生を対象に、バイオ医薬品に関する基礎から最先端の技術の習得、そして医薬品企業でのインターンシップを含んだ教育プログラムとして実施するものです。

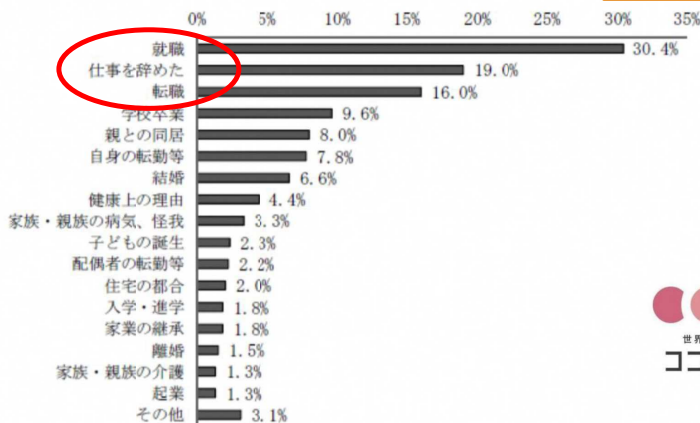
短期間でバイオ医薬品の基料や分析等を集中的に学ぶことができる絶好の機会です。ご参加をお待ちしております。

富山県立大学は、生物工学研究センター(1992年～)を基盤に発展し、2011年には生物工学科の浅野教授の超高性能化プロジェクトが BRATO に採択されるなど世界的な研究を展開しつつ、併せて産学連携研究を進め、地域及び社会に貢献しています。また、2017年4月には全国でも珍しい医薬品の製造・開発などを研究する医薬品工学科を開設しました。

主催：「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム
富山県立大学でもサマースクール(講義・製剤コース)(7/29～8/5)を実施します。

富山型HYUGGE提案2 働き方

図表3-1 出身県へのUターンのきっかけ(複数回答)
【出身県Uターナー者】N=1467



仕事を大切にしないと、人の流れはない。

地方の方が仕事に対する“可能性”が高い。



世界にたったひとつ
ココマカロン



Latticework
BREWING COMPANY
Brewed in Takaoka

資料) 独立行政法人労働政策研究・研修機構「若年層の地域移動に関する調査」(平成28年1月実施)

富山型HYUGGE提案3 子育て

移住者は、20-40代の子育て世帯が多い。
子育て・働きやすさの観点から、家事代行サービス、
ファミリーサポート、学童、保育園の充実が必要。

富山を「格差の小さな、働く女性や子どものまなびを大事にする社会」という点でスウェーデンというアナロジーでとらえているようだが、富山では共働き率が全国4位と高いにもかかわらず、実際に家事を妻が主に分担するという家庭は約8割に上るなど、女性が家事育児をするという役割分業が強固なまま、外に働きにも出ているのが実情だ（平成27年度富山県男女共同参画社会に関する意識調査結果）。共働き世帯でも男性の家事時間は38分（全国は43分）と全国平均より低く、6才未満の子を持つ夫婦での「家事」「育児」に関わる時間差は、6時間16分と全国と比べても夫と妻の時間差が大きい（平成28年度社会生活基本調査 生活時間に関する結果の概要（富山県分））。

「富山は日本のスウェーデン」の本に関するWEB記事より

提案実施内容① 移住サポーター窓口の設置

高岡市



富山市



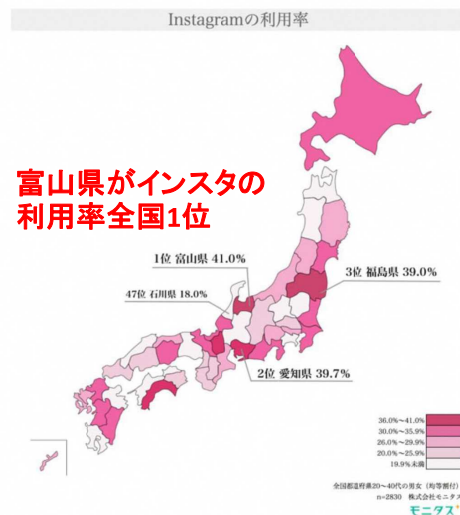
魚津市



提案実施内容②

Instagramの開設 @hyugge.toyama

富山に暮らす移住者が、「世界一幸せなくに、とやま。」で暮らす良さ、魅力、新たな発見を伝える場所。20代～30代に向けて発信するアカウントを新たに設置。各市町村2名ほど担当者を決め、インスタを更新。五感を育てる富山の魅力を発信します。



提案実施内容③

想いを1つに！

県としてのPRを一本化し多様化する。



富山型HYUGGE 「世界一幸せなくに、とやま。」

<グループ区分・検討テーマ>

第2グループ「地域経済の活性化、高付加価値・創意工夫のものづくり」

1 検討の背景

～重要 KPI～

- 短期滞在者（観光人口）→中期滞在者（関係人口）→長期滞在者（定住人口）の増大
- 観光滞在日数・リピート率のアップ
- 女性の県外流出防止・流入増大
- 県内就職率・UI ターン率のアップ
- 多拠点生活としての富山県の選択

～富山県の強み～（資料：1 ◆特徴<強み>）

- 教育
- ものづくり先進県
- 暮らしやすさ

2 課題・論点

～富山県の課題（弱み）～（資料：2 ◆課題<弱み>）

- 若年層の女性流出
 - ※進学・就職・結婚のタイミングで県外に
- 県内企業への就職率・Uターン
 - ※Uターン率は全国の中では高いが、6年にわたり横ばい
- 観光滞在日数・リピート率
 - ※通過される富山からの脱却、回遊性を高め滞在時間を伸ばす必要あり

3 提言の方向性

概要

- 富山の強みである「教育」をベースに、「産業観光」の強化と各種「子育て」支援策を拡充し、富山ならではのブランディングによる「関係人口」の増加を図る。
- ・産業観光、体験型インターンシップの受入れを強化し、子育てファミリー層（女性）を呼び込むとともに、就業人口の増加とものづくり産業の振興につなげる。
- ・教育県富山として、学生に県外（海外）留学、短期インターンシップの機会を提供するとともに、県外学生の受入れ、地域のコミュニティスペースとしての図書館の有効活用など、魅力的な子育て・教育環境を発信する。

きょういく県とやまにむけたキーワード

義務教育からの解脱
教育のダイバーシティ
学び直しの聖地

きょういく県とやまが受入のターゲットする候補と施策案と考えられる効果

- ・ 県内 小中学生：夏休み教室、県外・国外への留学
 - ◎ふるさと教育・県内企業への就職率アップ
- ・ 県内 高校生：17歳の挑戦、県外国外への留学
 - ◎県内企業への就職率アップ
- ・ 県外 小中学生：夏休み教室、県内への留学
 - ◎産業観光、滞在型観光、将来の交流・関係・定住人口へつながる、多拠点居住
- ・ 全国 ドロップアウト（不登校、ひきこもりなど）した子ども：義務教育にとらわれない「とやまの学び場」づくり
 - ◎多拠点居住の候補地、学びの聖地とやま
- ・ 海外 教育集団（◎産業観光、滞在型観光、全国でもいち早く学びの候補地に）
：官民連携した受入

※受入だけでなく、異文化の学校と提携し、富山県内の学生は交換留学（国内外）を必須とするような全国的にも先進的な制度の検討

※図書館を地域のコミュニティスペースとして活用し、学童の拡充を図る

※いつでも誰でも学ぶことのできるとやまに、若年層の女性転出以上の転入超過が期待できる。

その他の意見

- 県内の誇るヒト・コト・モノ・情報をシェア・発信できるプラットフォームの創出
- スタートアップ支援やベンチャー育成
- 県外国外でも認められる TOYAMA ブランドの発信
- 暮らし・教育分野のインターシップ受入
- 女性活躍推進
- 5G の活用

以上

各種統計データによる富山県の特徴<強み>と課題<弱み>について

とやま未来創造青年PT
第2グループ

1 ◆特徴<強み>

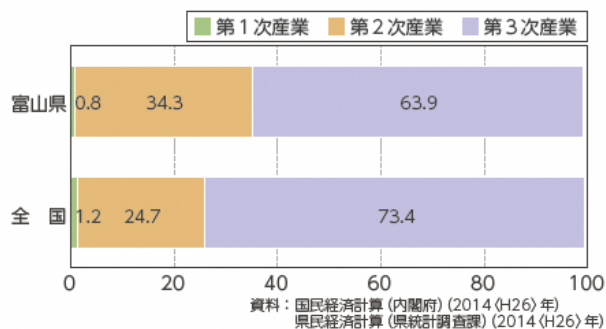
➤ 教育

- ◇ 全国学力・学習状況調査（2019）小学校6年：4位、中学校3年：4位
- ◇ 大学入試センター試験現役志願率 52.9%（2019.1）全国3位
- ◇ 人口10万人あたりの図書館数 全国2位 5.53館（2015）（全国2.61館）
都道府県別：<https://todo-ran.com/t/kiji/14230>

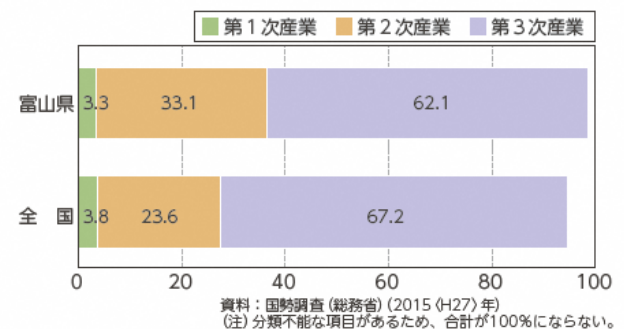
➤ ものづくり先進県

- ◇ 本県の産業構造は、全国と比べて生産額、就業人口とも第2次産業の割合が高く、医薬品などの化学、アルミなどの金属、機械、電子部品を中心に日本海側屈指の工業集積を形成

■産業別総生産構成比



■産業別就業人口構成比



- ◇ 1人当たり製造品出荷額 347万円（全国11位、日本海側2位）

➤ 暮らしやすさ、住みよさ

◇ 生活

- 持ち家率 78.1%（2015） / 1住宅あたり延面積 143.57㎡（2018）全国1位
- 可処分所得（勤労者世帯（二人以上）1世帯あたり1か月）
524,886円（2018）全国4位

- 1人当たり県民所得 3,373千円（2015）全国5位
- 生活保護率（少なさ） 0.34%（2017）全国1位

◇ 安全

- 火災発生件数（少なさ・人口1万人あたり） 1.59件（2018）全国1位
- 救急自動車による現場到着所要時間（短さ） 7.0分（2017）全国2位
- 重要犯罪件数（人口10万人あたり） 2.4件（2016）全国1位
- 今後30年以内震度6弱以上確率 5.2%（2018）

◇ 社会資本

- 道路整備率 74.4%（2017）全国1位

◇ 子育て支援

- 保育所等入所率 73.1%（2017）全国2位

◇ 労働

- 有効求人倍率（就業地別） 2.10倍（2019.7）全国3位
（受理地別） 1.87倍（2019.7）全国8位
- 高校生の就職率 99.7%（2019.3）全国2位

- 若者(15~34歳)の正規雇用率 77.8%(2017)全国1位
- 女性(15~64歳)就業率 72.0%(2015)全国3位
- 女性の正規雇用率 51.5%(2017)全国3位
- 県内の発電電力量に占める
再生可能エネルギー(水力等)発電量 67%(2017) … 全国は12%

2 ◆課題<弱み>

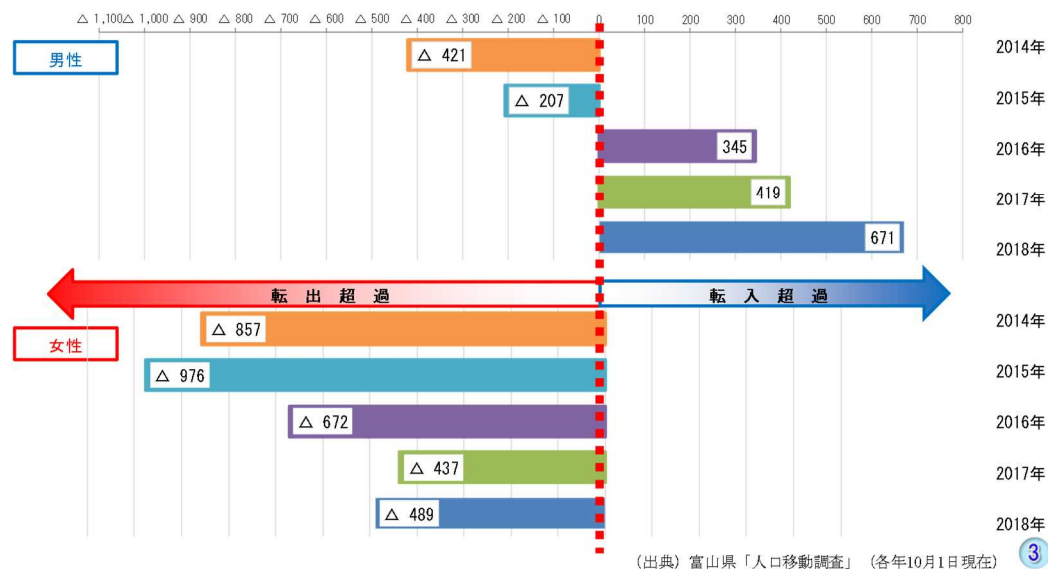
➤ 女性流出、流入

◇ 富山県の女性の転出入(社会移動)の推移(15~34歳)

㊦857人、㊧976人、㊨672人、㊩437人、㊪489人

15歳~34歳の社会移動の状況(日本人+外国人)

- ポイント① 男性は、年々社会動態が改善し、2016年に転入超過に転じた
- ポイント② 女性の社会移動は改善傾向にあるものの、依然として転出超過
- ポイント③ 若い世代全体では、182人の転出超過となっている



➤ 就職率、Uターン

◇ 就職率：上記◆特徴<強み>の労働区分に記載

◇ Uターン率：㊦57.6% ㊧57.4% ㊨58.1% ㊩58.4% ㊪58.2% ㊫58.4%

◇ 県外転出経験者のUターン率 55.3%(全国2位)

①沖縄 70.9% ②富山 55.3% ③静岡 54.7% ④宮崎 52.5% ⑤愛知 51.7%
(国立社会保障・人口問題研究所「人口移動調査」)

➤ 観光滞在日数、リピート率

◇ 富山県内の旅行者の滞在時間

平均のIN/OUT時間

	新幹線開業前 (H24~26平均)		新幹線開業後 (H27~H29平均)	
	到着時間	出発時間	到着時間	出発時間
富山県	15:27	11:50	14:18	13:11
全国平均	14:55	12:27	13:58	13:42
滞在時間差	0:32	0:37	0:20	0:31
滞在時間差計	1:09 ▲18分 0:51			

出典:じゃらん宿泊旅行調査

とやま未来創造青年プロジェクトチーム 第3グループ経過報告書

<グループ区分・検討テーマ>

第3グループ「自然のめぐみ・魅力の発信」

1 検討の背景

- ・シングルマザー、障害、鬱病、経済的弱者、などが増えているが、孤立していることが多い
- ・富山の古い村社会がなくなりつつある
- ・過疎の村と人の住んでいるところとがあるけど、人口減少のなかで社会を維持することができない
- ・コンパクトシティなどの効率化などがあるが、富山のめぐみは中山間地に多い
- ・内需だけではなく、外資を稼がなければいけない

2 課題・論点

- ・生きる力（多様性への対応能力）が少なくなっている
- ・情報過多の時代で、イメージや間違った情報で、行動してギャップに苦しむ
- ・若い女性の県外流出
- ・ストレス社会
- ・県民性
- ・結婚しろと言われるとか干渉される
- ・娯楽がない
- ・楽しくてワクワクすることが少ない
- ・女性は美容系が好き、綺麗な水
- ・女性は感覚的

3 提言の方向性

自然のめぐみを活かして、心の平穏を保てなくなっている人をポジティブな方向に導く農業などを通じて楽しくてワクワクできるような体験や、観光資源として活かす